

もっと知りたい 福生の歴史（1）

福生市のことをより知ってもらえるように、いくつかテーマをしぼって取り上げています。

福生を走る鉄道（1）

JR青梅線（旧青梅鉄道）

現在のJR青梅線の前身は、私鉄の青梅鉄道で、明治27年（1894）に開通しました。開業当初は立川から青梅までで、途中駅は終点の立川、青梅のほかに拝島、福生、羽村、小作の計6駅がありました。

開業当初の青梅鉄道は、軽便鉄道といって、現在よりも線路の幅が狭いものでした。青梅で採れた石灰を運ぶために、中央線の前身である私鉄の甲武鉄道に接続する立川まで運転していましたが、甲武鉄道は現在の青梅線と同じ幅の線路を使っていたので、直接乗り入れることができず、立川で荷物の詰め替えが必要でした。そのため、明治41年（1908）に青梅鉄道も現在と同じ線路の幅に変更となります。

青梅鉄道が電化されたのは大正12年（1923）で、昭和4年（1929）に青梅電気鉄道へ改称しました。複線化事業は順次進められ、昭和18年（1943）に立川—中神間が、昭和21年（1946）には中神—拝島間が、昭和36年（1961）には拝島—福生間、福生—小作間が、昭和37年（1962）には小作—東青梅間が複線化されました。

青梅から先は順次延長され、昭和4年（1929）には御嶽まで延伸しました。戦時中、全国的に各地の私鉄が買収され国有化されましたが、青梅電気鉄道も昭和19年（1944）に国有化され、国鉄青梅線となりました。国有化後に御嶽から現在の奥多摩までの区間が完成しました。

昭和62年（1987）には国鉄が民営化され、JR青梅線となりました。また、平成10年（1998）には、当初の目的であった石灰石輸送が廃止となりました。



青梅鉄道の2号機関車（英国バグナル社製）
（明治36年 現在の福生第一中学校付近）



オレンジ色の車両が導入される以前の青梅線
（昭和36年 福生—牛浜間）



「青梅線開業88周年記念入場券」
（昭和57年11月19日発売）
開業当初の6駅の入場券がセットになっている。

もっと知りたい 福生の歴史 (1)

福生市のことをより知ってもらえるように、いくつかテーマをしぼって取り上げています。

車 列 り 上										車 列 り 下																			
線 央 中					線 梅 青					線 梅 青					線 央 中														
八王子	立川	飯田町	新立	平	立	中	拜	島	小	日	向	島	青	小	日	向	島	青	小	立	川	飯	田	新	立	川	飯	田	新
着	着	着	着	着	着	着	着	着	着	着	着	着	着	着	着	着	着	着	着	着	着	着	着	着	着	着	着	着	着
10:00	10:10	10:20	10:30	10:40	10:50	11:00	11:10	11:20	11:30	11:40	11:50	12:00	12:10	12:20	12:30	12:40	12:50	13:00	13:10	13:20	13:30	13:40	13:50	14:00	14:10	14:20	14:30	14:40	14:50

大正四年四月一日改正
電報番号三十一番

「大正4年の時刻表」
開業当初の青梅線は、一日4往復。大正4年のこの時刻表でも福生を通る列車は一日8往復しかない。この時刻表を見ると、福生—立川間の所要時間は25分〜30分程度かかっている。



複線化された当時の福生駅。市街地は多摩川沿いであったため、改札口やホームは西口側にだけあった。単線時代の旧ホームは、現在の福生駅でも見ることができる。
(昭和36年頃 福生駅)



福生駅東口の開設は、福生駅ができてから57年後の昭和26年だった。
(昭和26年 福生駅東口)



牛浜駅は、青梅線では一番新しくできた駅。戦時中の昭和18年、当時の陸軍多摩飛行場に近かったため、軍の要請によって仮停留所として開設し、昭和19年の国有化とともに駅として開業した。
(昭和35年 牛浜駅)



牛浜駅は、昭和36年の拝島—福生間の複線化に合わせ、青梅線で一番初めに橋の上に改札口のある橋上駅舎が完成した。平成24年には国体の開催に向けて、バリアフリー対応の新しい駅舎での運用が始まった。
(昭和36年 牛浜駅)

発行・問合せ 福生市郷土資料室 (042-530-1120)
福生市熊川850-1 (中央図書館内) 開館時間 10:00~17:00
※月曜休館 (月曜日が祝日の場合は翌火曜日)
<http://www.museum.fussa.tokyo.jp/>